

事業名 錦鯉用証明書発行システムの開発販売と新潟県産錦鯉の販路拡充

連携体 中小企業者：(株)ナバ(ITシステム設計・開発)

農林漁業者：丸重養鯉場(養鯉業)

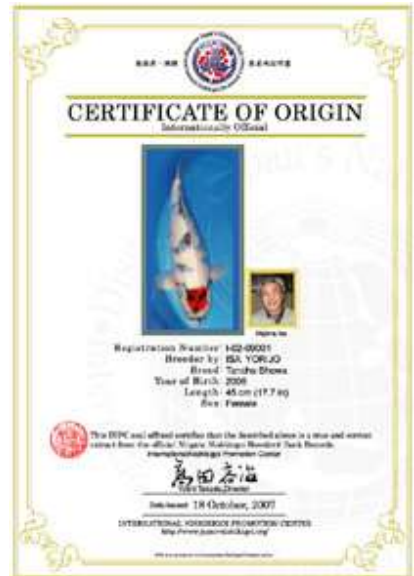
連携参加者：国際錦鯉普及センター、全日本錦鯉振興会、(株)シマノ科研、日本コンピュータ・ダイナミクス(株)

サポート機関等 地域活性化支援事務局

事業概要(連携の経緯、商品等の新規性・市場性・競争力)

◆連携の経緯

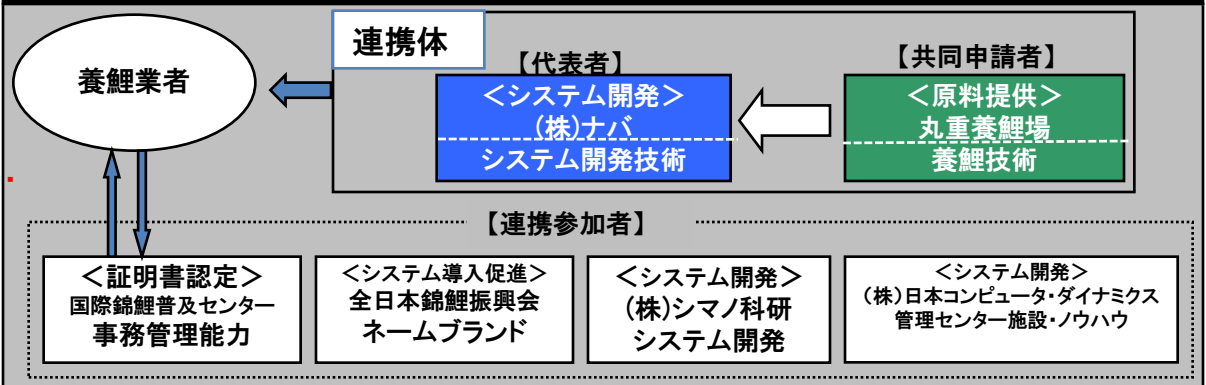
新潟産錦鯉は約200年に渡り、中越地方の鯉師(錦鯉生産者)の手によって産出されてきた。日本を代表する輸出産品としてその約7割が世界20ヶ国以上に輸出されている。一方、2004年10月に発生した中越地震によって最も大きな被害を受けた産業である。その間、国内外の他地域における養鯉業者に対する原産地としてのブランド構築作業が立ち遅れた。養鯉産業振興のため、本事業によるシステムが不可欠である。そのため、世界に通じるブランド構築に必要な養鯉技術をもつ丸重養鯉場と(株)ナバの連携体が構築された。



◆新商品又は新役務の内容とその市場性・競争力

広く国内外の愛鯉家および鯉ディーラーに対して新潟産錦鯉の証明書の形で生産者自身が必要に応じて誰でも簡単に発行できるシステムを開発するものである。これにより原産地証明、生産者証明等錦鯉個体の品質証明を行うことで、他地域産の錦鯉との差別化を図り、国際的ブランドを構築する。

連携体の構成と活用する経営資源



期待される地域経済への効果等

- ◆山古志及び周辺地域の経済活性化
- ◆システムの売上見込:4800万円(平成22年10月期)
- ◆養鯉技術向上、技術継承等による雇用維持・促進
- ◆錦鯉流通の適正化による関係機関の経営改善
- ◆新潟産錦鯉の世界最高ブランドへの確立

代表企業等の連絡先

- ◆代表者(所在地):株式会社ナバ (東京都品川区西五反田4-32-1)
- ◆電話番号:03-5435-5240
- ◆FAX番号:03-5435-5244
- ◆E-mail:yoshi@venture-web.or.jp
- ◆ホームページ:www.venture-web.or.jp/naba/

事業名

簡易測定可能な豚肉脂質測定装置の開発と
同装置の活用による『黄金豚』の開発・販売

連携体

中小企業者：(株)相馬光学(分析機器製造業)

農林漁業者：神明畜産(株)(養豚業)

連携参加者：宮崎大学農学部教授 入江正和

サポート機関等

西武信用金庫、(社)首都圏産業活性化協会、地域活性化支援事務局

事業概要(連携の経緯、商品等の新規性・市場性・競争力)

◆連携の経緯

(株)相馬光学は、過去7年間、宮崎大学入江教授の指導のもとに、食肉の脂質測定に関する研究を踏まえて、脂肪酸(主にオレイン酸)を容易に測定できるプロトタイプ機を製作した。この測定装置の商品化に向け、使用者の視点から技術開発に協力してもらえ事業者を求めている。一方、神明畜産(株)は、豚肉のブランド化による差別化を進める上で、定量的な指標を示すことが必須だと感じていた。

【豚肉脂質測定装置プロトタイプ機】



【神明牧場】

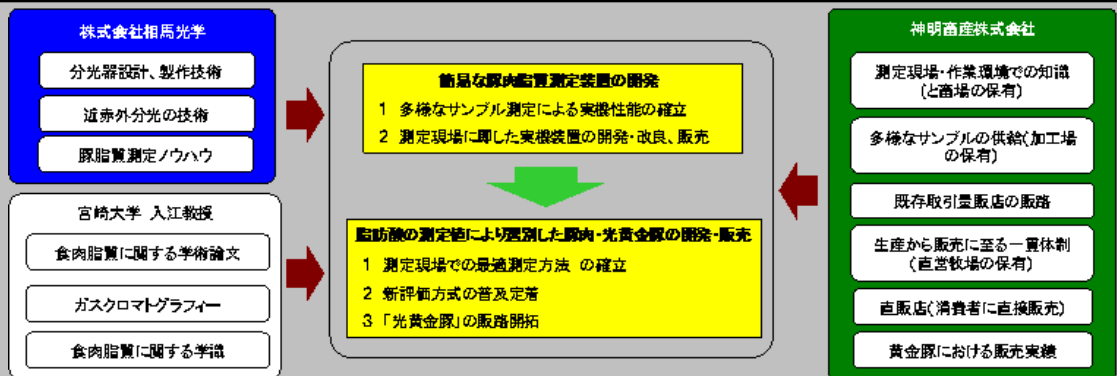


◆新商品又は新役務の内容とその市場性・競争力

現状の理化学評価方法で困難な、豚肉脂質の簡易・非破壊・迅速測定が可能な近赤外分光による測定装置の開発・販売、及び、神明畜産(株)の現製品であるブランド豚(=黄金豚)を、本装置(光センサー)にて測定してオレイン酸等の脂肪酸組成値により選別した豚肉を『光黄金豚』として販売を行う。

市場に対し、科学的根拠による「おいしさの指標・オレイン酸」にて選別することで、より高い需要が見込まれる。

連携体の構成と活用する経営資源



期待される地域経済への効果等

- ◆豚肉脂質測定装置の売上高 …2億円
- ◆本連携に伴う新規雇用創出者数… 65名(連携体全体)
- ◆新指標による豚肉ブランド化の確立
- ◆新指標の定着による食への関心度の向上

代表企業等の連絡先

- ◆代表者(所在地):株式会社相馬光学 (東京都西多摩郡日の出町平井23-6)
- ◆電話番号:042-597-3256
- ◆FAX番号:042-597-3208
- ◆E-mail:sales@somaopt.co.jp
- ◆ホームページ:http://www.somaopt.co.jp/

事業名 「練馬大根の葉を練りこんだうどん」の乾麺開発

連携体
 中小企業者：エン座（うどん店）
 農林漁業者：渡戸 章（農業）
 連携参加者：木下製粉㈱（小麦粉製造業） 瀧島 正善（農業）

サポート機関等 東京商工会議所練馬支部、地域活性化支援事務局

事業概要（連携の経緯、商品等の新規性・市場性・競争力）

◆連携の経緯

東京から埼玉へまたがる武蔵野台地に広がる武蔵野糧うどんは、冷たい麺を熱い汁で食し、「糧」と呼ばれる茹で野菜を添えて日常的に食べられる。エン座では、手打ちでの製麺量には限界があり、多くのお客様に提供できない。一方、練馬区の農業は、生産すればするほど赤字となる傾向がある。農業生産だけの黒字化は困難で、農業に付加価値をつけることで売上増を図ることが課題である。お互いに協力し合い、武蔵野の食文化を広めることを目的に連携に至った。

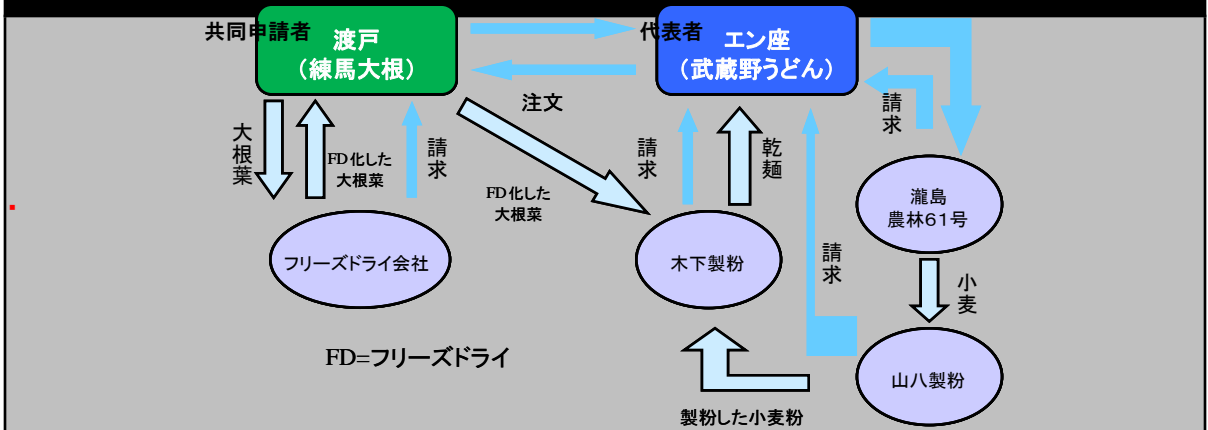


◆新商品又は新役務の内容とその市場性・競争力

「練馬大根うどん乾麺（仮称）」は有機無農薬栽培の練馬大根菜（フリーズドライ）と、武蔵野産小麦を50%配合したうどんの乾麺である。「練馬大根うどん」はエン座のオリジナル商品であり、過去にエン座で11月～12月の土日だけ販売されていた期間限定人気商品である。エン座のうどんは、全国から来店がある。お客様のニーズに応えながら、武蔵野にこだわった商品性をアピールして販売をおこない、武蔵野糧うどんを広める。



連携体の構成と活用する経営資源



期待される地域経済への効果等

- ◆農業に付加価値をつけることで収益の増加が見込める。
- ◆農業に一次加工作業を組込み成功させることで周辺農業への起爆剤となる。
- ◆武蔵野糧うどんの知名度向上への貢献が可能になる。
- ◆供給が追いついていない部分をカバーすることが可能となる。

代表企業等の連絡先

- ◆代表者（所在地）：エン座
（東京都練馬区石神井台8-22-1-105）
- ◆電話番号：03-5980-8570
- ◆FAX番号：03-5980-8570
- ◆ホームページ：
<http://www1.ocn.ne.jp/~chiyomom/enzaHP/index.html>